

参 考 手 本

寒風夜霜を催す

寒風夜霜を催す

成瀬映山先生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。

漫 天
送 寒 雪

天に漫り雪寒を送る
てん はびこ ゆきかん おく

高 木 聖 雨 先生

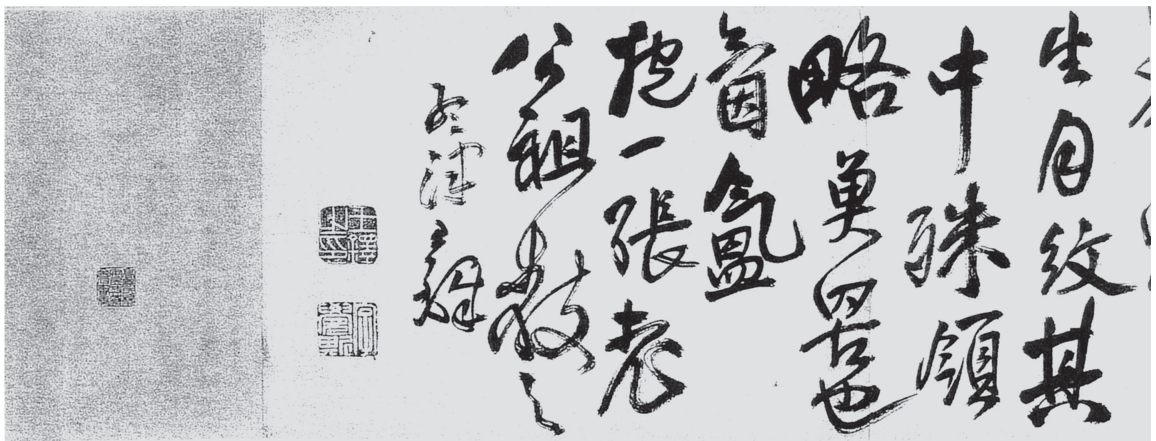
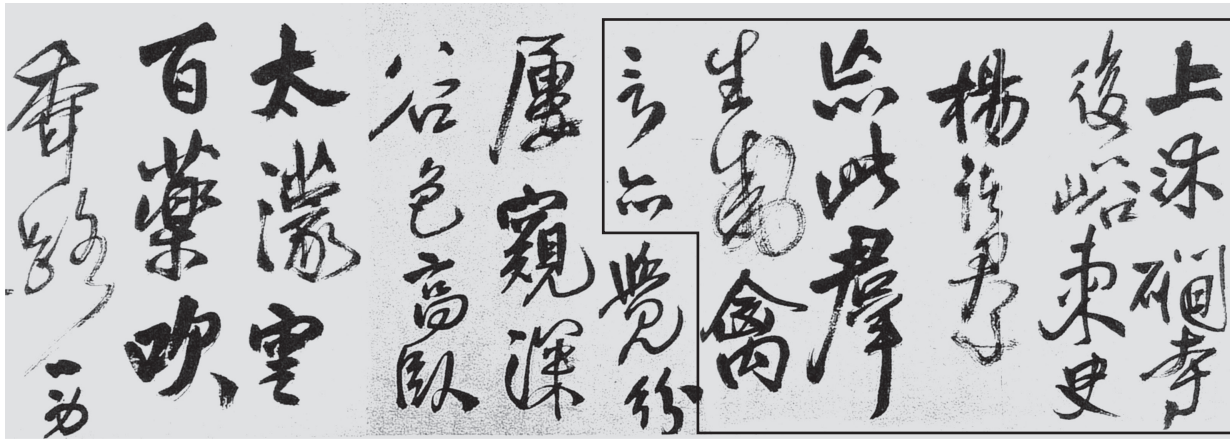
条幅規定

A部 (準五段以上)

B部 (四段～準三段)

王鐸 おうたく

「行書五律五首卷」⑨



史諸君子東

上沐礪寺後峪

東史楊諸君子

忘此群生動

禽言亦覺紛

屢窺深谷色

高臥太濛雲

百藥吹香路

一身生月紋

其中殊領略

魚罟也氤氳

*

抱一張老公祖教之

孟津王鐸

沐礪寺の後峪に上り

史・楊諸君子に東す

此の群生の動くを忘れ

禽言も亦た紛たるを覚ゆ

屢しば窺う 深谷の色

高臥す 太濛の雲

百藥 香路に吹き

一身 月紋生ず

其の中 殊に領略

魚罟 也た氤氳

*

抱一張老公祖 之を教えよ。

孟津の王鐸。

【今月の課題】

「上沐礪寺後峪東史楊諸君子忘此群生動禽言亦」(20字)

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

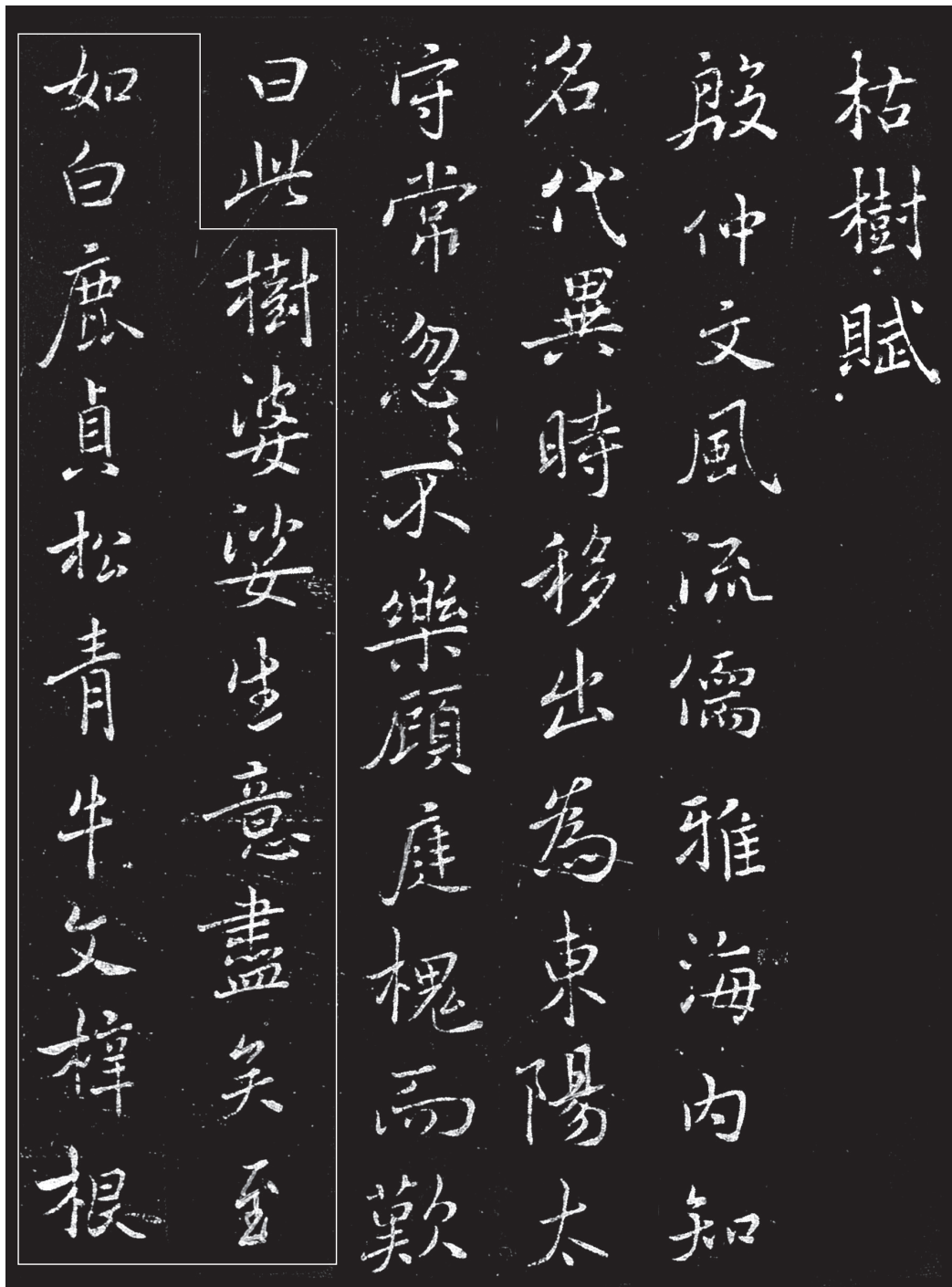
条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く
段・級を記入してください

(3月10日締切)

『枯樹賦』
こじゆのふ

褚遂良（唐）
ちよすいりよう

③



枯樹賦。

殷仲文。風流儒雅。海內知名。代異時移。出為東陽太守。常忽忽不樂。顧庭槐而歎曰。此樹婆娑。生意盡矣。至如白鹿貞松。青牛文梓。根

枯樹賦。
殷仲文は、風流の儒雅にして、海内に名を知らる。代異なり時移り、出でて東陽の太守と為る。常に忽々として樂します、庭の槐を顧みて歎じて曰く、此の樹婆娑として、生意尽くと。白鹿の貞松、青牛の文梓の如きに至りては、根柢

【今月の課題】

「樹婆娑生意盡矣至如白鹿貞松青牛文梓根」（18字）

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・綴を記入して下さい

（3月10日締切）

曹全碑（漢・作者不詳）

旅臨槐里感

半紙規定（一）



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

師・旅・を・還・し、槐・里・に・臨・む。孔・懷・に・感・じ、

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

霄之右東流度

半紙規定（二）



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書 〔二級以下〕楷書

丹・霄・の・右・に・注・ぎ、東・流・し・て・双・闕・を・度・り

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
（3月10日締切）

条幅参考手本

主人不相識 偶坐為林泉 莫
謾愁沽酒 囊中自有錢

景雲

渡辺景雲先生

主人不相識 偶坐為林泉 莫謾愁沽酒 囊中自有錢
主人相識識らず 偶坐するは林泉が為なり 謾りに酒を沽うを愁うる莫れ 囊中自ら錢有り

下村柴雲先生

竹橋横小澗 泉聲落空山 唯有幽棲客
扇舟恣往還

柴雲

竹橋横小澗 泉聲落空山 唯有幽棲客 扇舟恣往還
竹橋小澗に横たわり 泉声空山に落つ 唯だ幽棲の客有り 扇舟恣に往還す

条幅参考手本

為樂當及時何能待來茲愚
者愛惜費但為後古嗤

石田輝仙先生

為樂當及時 何能待來茲 愚者愛惜費 但為後世嗤

樂しみを為すは当に時に及ぶべし 何ぞ能く來茲を待たん 愚者は費を愛惜し 但だ後世の嗤いと為るのみ

浮乗清郷先生

条幅かな

たごの浦の浪もひとつに立つ雲の色わかれゆく春のあけぼの

多 たごの浦の浪もひとつに立つ雲の色わかれゆく春のあけぼの (藤原定家)

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

(3月10日締切)

半紙かな（１級～８級）

水鳥の重たく見えて浮きにけり（上島鬼貫）
みづどり おも 於も 多九 益 憂 耳 个 理

支部名 級 姓 号（鉛筆可）

※ちらし文字変換は自由

水鳥の重たく見えて浮きにけり

水鳥の

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

桜花散らば散りなむ散らずとてふる里びとの来ても見なくに（惟喬親王）
さくらばなち さくらばなち 千 盤 進 理 奈 ち 須 帝 不 斜 日 濃 二

支部名 段 姓 号（鉛筆可）

船久保 棠苑先生

※ちらし文字変換は自由

桜花散らば散りなむ散らずとてふる里びとの来ても見なくに

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（３月１０日締切）

浮乗清郷先生

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

書が今日のように発達する為には
直接強い影響を与えたものに筆、
墨紙などの用具の持つ特殊性も
無視することはできません

支部 段級 姓 号

大井 岳陵 先生

(3月10日締切)

細 字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より P8

主 幹 菅 野 翠 濤

漸 伸 葦 角 萩 芽 尖 苞
漸 伸 葦 角 萩 芽 尖 苞
漸 伸 葦 角 萩 芽 尖 苞
漸 伸 葦 角 萩 芽 尖 苞

支 部

段 級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級以下は草書まで。 初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

(3月10日締切)

硬筆（１級以下）

2行、楷書

我が家の庭に寒梅の花が咲きま
した。春遠からじと感じます。
支部 級 姓 号

田 邊 翠 鶴 先 生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

梅は早春の花の代表であり、香り
よく栽培が容易、木の寿命が
長く古木には味わいがある。
支部 名 姓 号

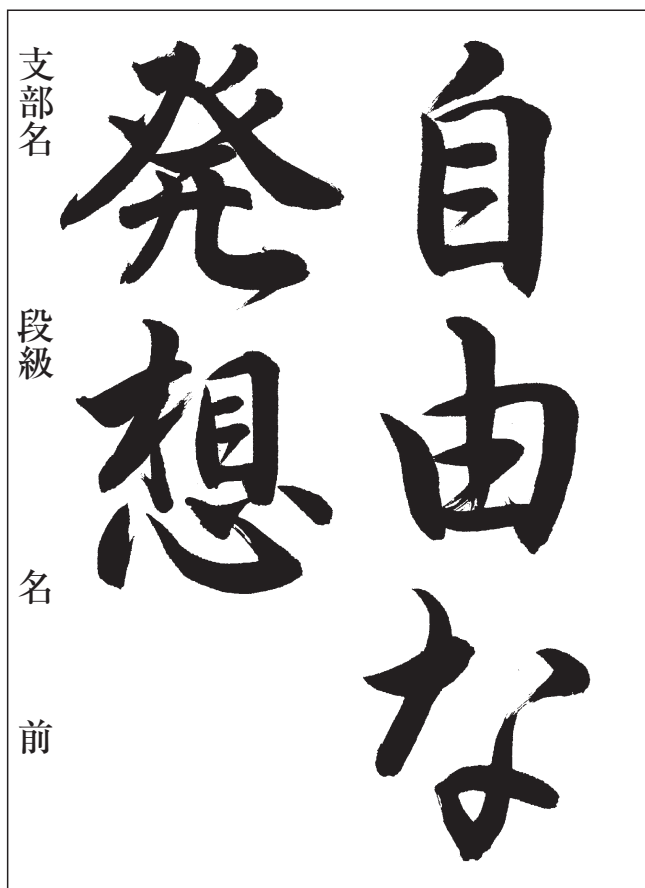
青 柳 江 雲 先 生

…代表…栽培…味…。

※本院定型用紙・たて半分に書く

（3月10日締切）

中2用



渡邊南嶂先生

中3用



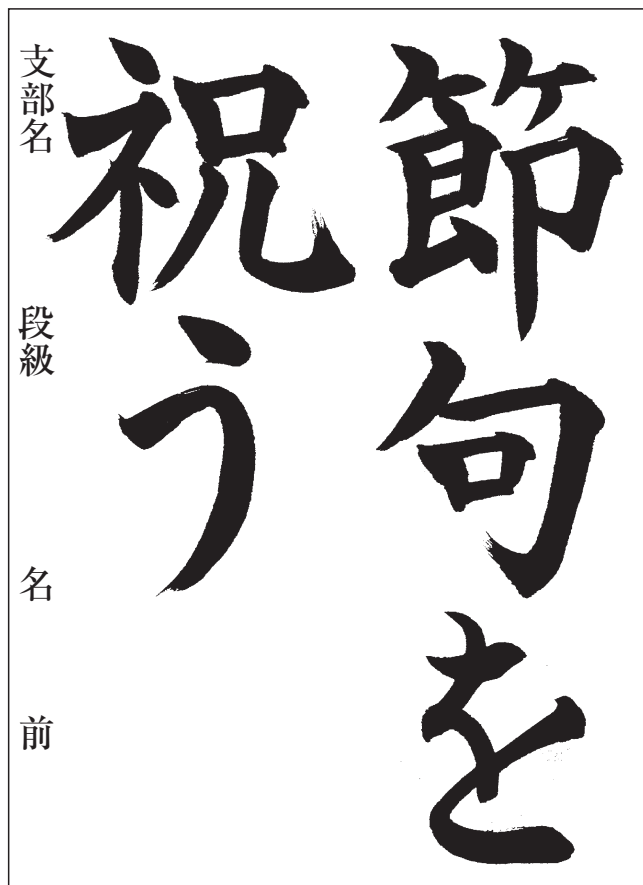
大越三宗先生

小6用



渡邊南嶂先生

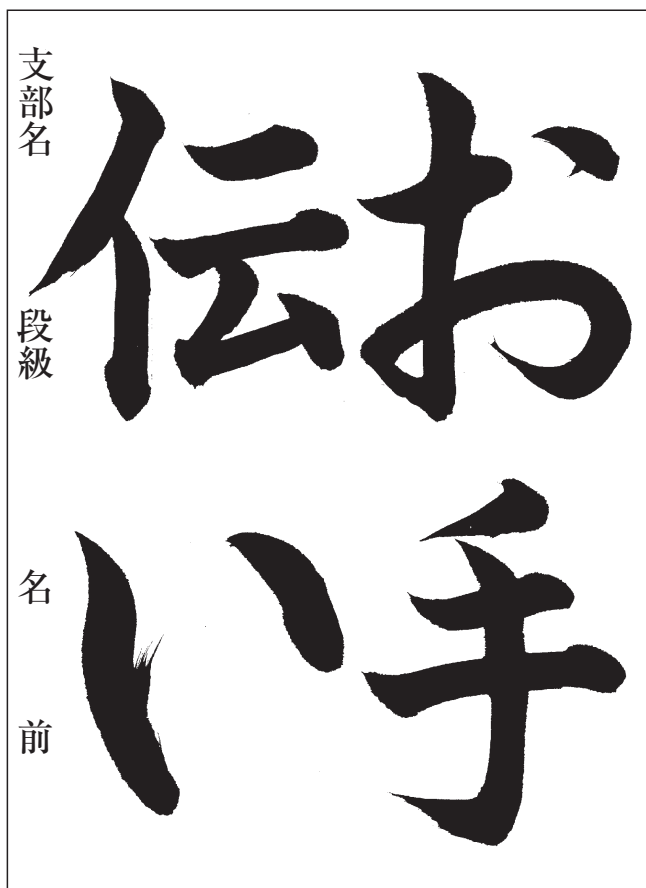
中1用



渡邊南嶂先生

(3月10日締切)

小4用



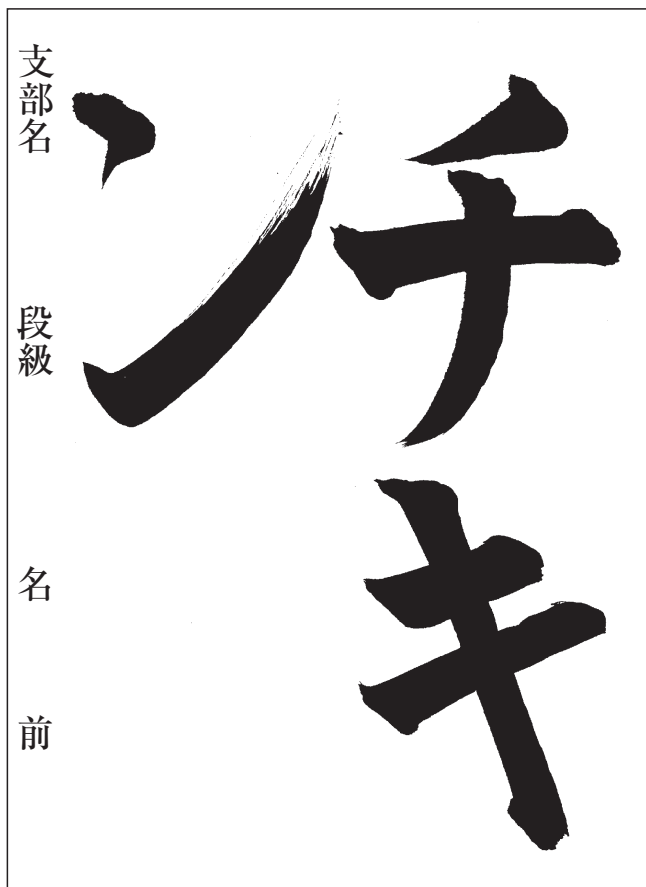
大越三宗先生

小5用



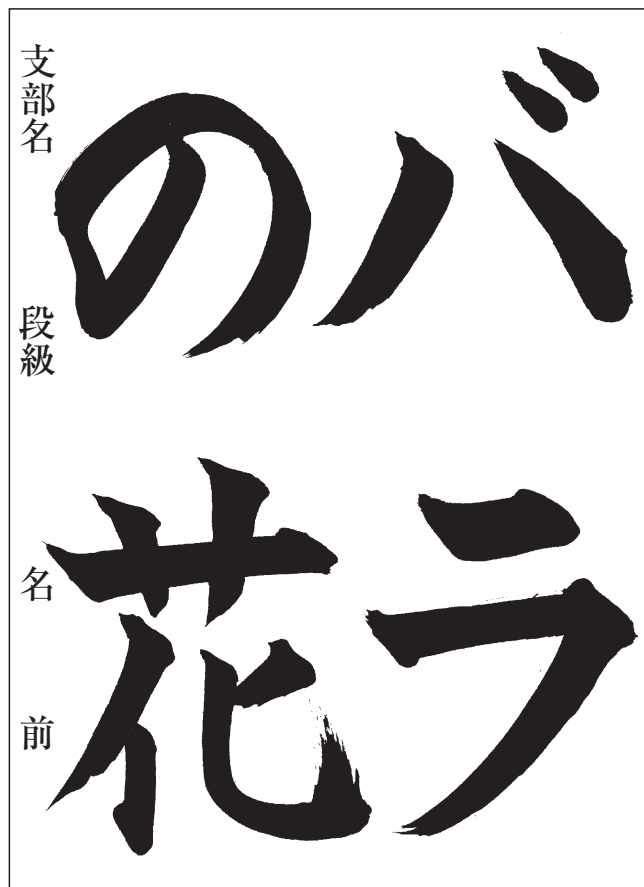
大越三宗先生

小2用



鈴木翡翠先生

小3用



鈴木翡翠先生

(3月10日締切)

中 1

を 親
保 しい
つ 間
こ 柄
と でも
が 節
大 度
切。

中1～中3

中 2

み 相
の 手
わ の
か 立
る 場
人 を
に 考
な え
ろ 痛
う。

青 柳 江

中 3

遠 寒
い 梅
故 は
郷 花
が を
懐 つ
か け
し た
い かな。
。

雲 先 生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

んふ
き

鈴木 恵 先生

小1・幼年

つ つ
く え
し た い
じ す
き。 え
ん ぴ

小1～小3

小 2

は い
る け
は に
ま こ
だ お
先 り
で が
す は
す。 り

鈴 木 恵

小 3

雪 ま
が ち
ふ ど
り お
つ しい
づ 春
い 山
て は
い る。

翠 先 生

小 4

て 寒
元 い
気 冬
よ の
く 日
あ でも
そ 外
ぼ に
う。 出

小4～小6

小 5

の 北
足 国
音 に
が も
聞 う
こ すぐ
え 春
て 来
る。

田 辺 翠

小 6

朝 連
か 休
ら で
混 ス
雑 キ
し ー
て 場
い は
た。

鶴 先 生

(3月10日締切)

小学部小筆課題

中学部かな課題

船久保 棠苑 先生

風上に
白鳥あそび

年なり

支部名

段級

名

前

主幹 菅野翠濤

山の春に

雪が光る

支部名

段級

名

前

半紙半分に書いて下さい

(3月10日締切)

半紙半分に書いて下さい

4月10日締切課題予告

A B部条幅規定 覺紛屢窺深谷色高臥太濛雲百葉吹香路一身生

C部条幅規定 柢盤魄山崖表裏桂何事而鎖亡桐何為而半

かな条幅規定 よしの山霞の奥は知らねども見ゆる限は桜なりけり(八田知紀)

半紙規定(初段以上) 孔懷赴喪紀

半紙規定(二級以下) 於雙闕圓窓青瑣

半紙かな(初段以上) 人はいさ心も知らずふる里は花ぞ昔の香ににほひける(紀貫之)

半紙かな(二級以下) 春めくと覚えつ、読み耽るかな(星野立子)

4月10日締切学生部課題予告

新中三規定 早春の青空

新中三硬筆 経験を積んだ者は、行うべき道を心得ている。

新中二規定 春の日差し

新中二硬筆 何事もねばり強く行動するよう心がけたい。

新中一規定 花見の人出

新中一硬筆 俳句では、季語という季節の言葉を入れる。

新小六規定 記念の木

新小六硬筆 雪国の人は、春が特に待ち遠しいものだ。

新小五規定 古いお寺

新小五硬筆 早春に、山や野原を歩くのはとても楽しい。

新小四規定 すみの色

新小四硬筆 雪どけ水が、音をたてて流れていきます。

新小三規定 王さま

新小三硬筆 春になり、あたたかな風がふいている。

新小二規定 テニス

新小二硬筆 しなの川が大きく、しずかにながれている。

新小一規定 つり

新小一・幼年硬筆 もうすぐはる。ともだちふやしたいな。

新中学部かな 流れゆく椿を風の押しとどむ

新小学部小筆 清らかな 水の流れ